

学校情報セキュリティポリシー策定に向けて

－ 自分たちを守るセキュリティポリシーを作るために －

三木市立教育センター 指導主事 梶本 佳照

me730457@ns.miki.ed.jp

http://www.miki.ed.jp/center/

キーワード：情報セキュリティ、情報資産、脅威、脆弱性、リスク、情報セキュリティポリシー、情報漏洩

1. はじめに

近年、情報の流出に伴う多くの事件が報じられている。その中で学校も例外ではなく、情報の流出をいかに防ぐかということが重要な課題になっている。学校には、保護者から預かっている個人情報がたくさんあり、個人情報を日常的に使って仕事をしている。しかし、学校の中にある情報資産にはどのようなものがあり、どのように守っていけば良いのかについて、体系的かつ具体的に決めているところは少ない。企業と比べて情報セキュリティ対策は遅れているといえる。三木市の学校においても、運用規定は定めているが、情報セキュリティポリシーまでは策定していない。しかし、企業の情報セキュリティポリシーをそのまま活用しても実情と合わない部分があるのと、難しいという印象を受けてしまう。また、情報セキュリティポリシーは、その策定過程での色々な取組が大切であり、策定していく中で、情報資産、脅威、脆弱性、リスク等について考えていくことが情報セキュリティポリシーを実効性のあるものにしていく上で大きな意味を持っている。そこで、「E スクエア・エボリューション」の事業に参加して、学校情報セキュリティポリシー策定に向けた取組をおこなうことにした。

2. 情報セキュリティポリシーの概要

情報セキュリティポリシーとは、その組織全体の情報セキュリティ対策の方針を、文書化したものである。情報セキュリティポリシーを策定することにより、組織として統一した情報セキュリティ対策を行なうことができる。情報セキュリティポリシーは、「基本方針」「対策基準」「実施手順」の3つで構成される（図1）。

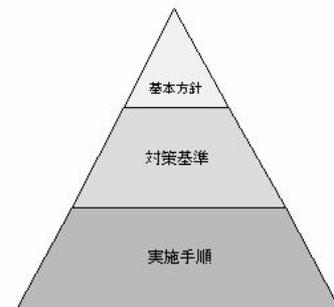


図1 情報セキュリティポリシー概要

3. 情報セキュリティポリシー策定の過程

3.1 策定体制について

学校での策定は、学校長が主導して行なっていくことが、大切である。担当者を支えながら学校全体として策定作業を行う雰囲気を作っていくためには、学校長の力が欠かせない。さらに、情報セキュリティポリシーに関する具体的な内容についても、「難しいことはわからない」では職責を果たせない状況になっている。以上のことから、今回の実証事業ではまず、学校長自らが、情報セキュリティポリシーとその策定手順について理解を深め、策定を体験した上で各自の学校での策定作業を進めることにした。

(1) メンバー

- ・中学校長 2名
- ・小学校長 1名
- ・教育センター 1名

(2) 策定作業の方法

- ・学校情報セキュリティ・ハンドブックに沿って策定作業を行う。
- ・策定作業は研修も兼ねる。
- ・ハンドブックの内容について検討を行う。

表1 情報セキュリティポリシー各層の内容

基本方針	目的、位置づけ、適用範囲、情報セキュリティ、管理体制、教育体制、罰則
対策基準	組織全体を考慮した共通な情報セキュリティ対策の基準を示す、物理的対策、技術的対策、人的対策
実施手順	部門の実情に見合った実効性のある手順を示す、システム管理マニュアル、業務マニュアル、バックアップ計画表

3.2 ハンドブックを利用した具体的策定の状況

(1) STEP 1 (問題意識の共有)

情報が漏洩することにより発生している問題事例を職員間で共有することにより、職員間で情報セキュリティの大切さを認識していく。

